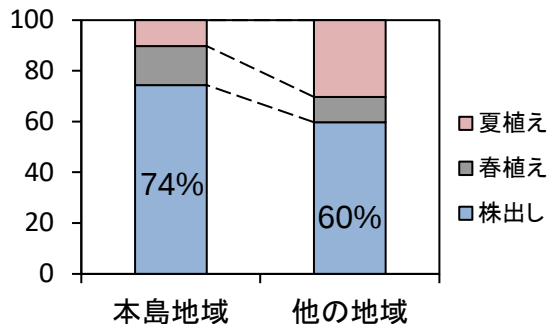


本島地域で株出し多収性を示すサトウキビ新品種 「RK10-1007」

- 沖縄本島は、他の地域と比べて株出し栽培の割合が多い地域です(図1)。一方で、単収は他の地域と比較して高くありません。
- 本島地域で多く栽培されてきた「NiF8」(農林8号)は、株出しの単収が不安定で低い傾向にあります。
- そこで、本島地域における株出し多収性の新品種「RK10-1007」を育成しました。

図1 R2年度の栽培型の割合 (%)



成果の概要

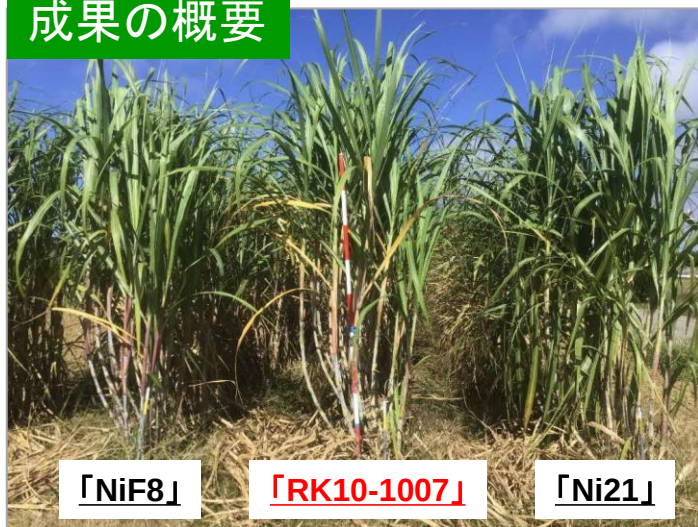


写真:「RK10-1007」(中央)の立毛(2022/12 糸満市)

育成経過

新品種候補「RK10-1007」は、株出し多収性に優れ、強い風折抵抗性を持つ「Ni21」を母親に、沖縄県育成系統「RK95-11」を父親に用い、沖縄県農業研究センターで交配しました。農業研究センター宮古島支所にて、第1次選抜試験を開始し、2020年品種候補に選ばれ、2024年に奨励品種となりました。

試験の結果

- 本島中南部地域および北部地域における試験において、特に**株出し栽培**の収量が多く、**春植え栽培**と**株出し栽培**の収量の合算値では「NiF8」よりも多収です(図2)。
- 2019年9月に襲来した台風による折損被害において、「RK10-1007」は「Ni27」よりも風折被害が低く、**強い風折抵抗性**を示しました(図3)。

図2 本島地域における現地試験の結果

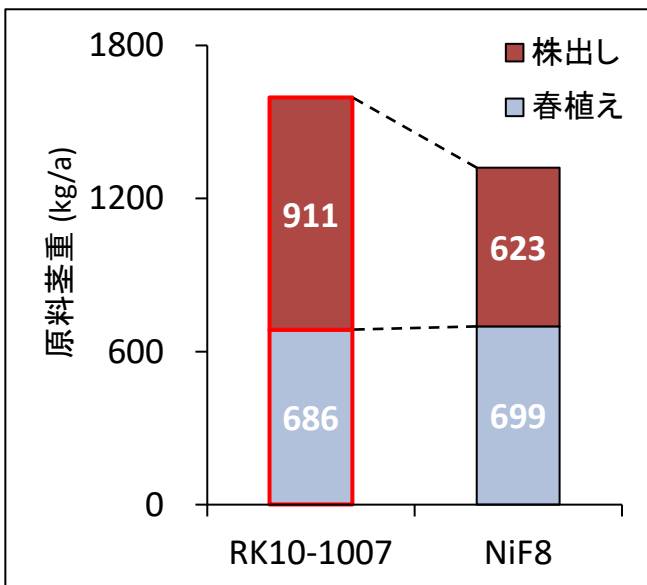
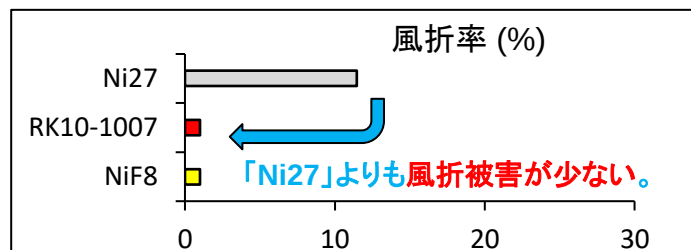


図3 台風による茎の折損の割合



活用面と栽培上の留意点

- 本島地域の「NiF8」の代替を中心に普及予定です。
- 「Ni27」と比べて風折被害は発生しにくいいため、リスク分散として利用が可能です。
- 黒穂病抵抗性は「Ni27」と同等の「中」であるため、黒穂病多発地域での栽培には注意が必要となります。

【担当】沖縄県農業研究センター作物班

【事業・課題名】イノベーション創出強化研究推進事業(生研支援センター・JPJ007097)課題番号26108C「生産環境の変化に対応した生産性の高いサトウキビ品種の育成」等、沖縄農業を先導する育種基盤技術開発事業(沖縄県農林水産部)